



2017~2018

国際ロータリー第 2730 地区

週報 佐土原ロータリークラブ

RI テーマ
ロータリー：
変化をもたらす

会長：郡司 武俊 副会長：鷓野 隆春 RI2730 地区ガバナー 押川 弘巳
幹事：梶田 與之助 会計：太田 雅文 中部分区ガバナー補佐 久寿米木和夫
事務局：吉野由里子 会報委員：藤堂孝一 RI 会長テーマ **ロータリー：変化をもたらす**
例会場：ワールド コンベンションセンターサミット 2730 地区テーマ『ロータリーを知り理解を深めよう』
例会場住所：〒880-8545 宮崎市大字塩路浜山
例会場 TEL：0985-21-1133・FAX 0985-21-1144
事務局住所：宮崎市佐土原町下田島 11703-18 TEL0985-62-7833 FAX0985-62-7877

第 1.456 回例会 平成 29 年 9 月 13 日(水)

<今日のプログラム>

- 1.)点 鐘
- 2.)ロータリーソング 「」
- 3.)4つのテスト唱和 4.)本日のビジター紹介
- 5.)会長の時間 6.)幹事報告
- 7.)出席報告 8.)ハッピーBOX 披露
- 9.)各委員会報告
- 10.)観月懇親会
- 11.)SAAより次週例会案内
- 12.) 点 鐘

第 1.455 回例 平成 29 年 9 月 6 日 (水) の記録

■4つのテスト唱和 柳田光寛会員

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. 皆に公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの為になるかどうか



■会長の時間 会長 郡司武俊会員



1455 回の例会です。最近喫茶店のモーニングに凝っています。学生時代はよく喫茶店にクラブの会議、試験勉強、ジャズを聴きに良く通ったものです。人生最初のデートも喫茶店でした、今でも覚えています。上野にあるスワンという喫茶店でした。宮崎に帰ってから喫茶店でモーニングを食べたことは無かったのですが最近患者様から高鍋に良い純喫茶がありモーニングが美味しいと聞いて妻と云うのですが種類も多くコーヒーも家で煎れたのとは違い美味しくゆっくり出来それ以来通っています。最近ファーストフード店が増える一方で喫茶店が少なくなっています。佐土原に純喫茶は無いと思いますが行ってみると昭

和の時代に帰ったみたいでいい雰囲気です。時には行かれてみてはいかがでしょう。早いもので 9 月に入りました、今月は地区大会があり 11 月 1 日にガバナー公式訪問が控えています。今年度のクラブフォーラムがクラブ研修の取り組みについての 2 点を発表しなければなりません。これについては研修委員の藤堂さんと計画を進めていたのですが退院後に新入会員研修会を計画しています。「戦略計画について」ですが、意味が分からなく地区研修協議会のテキストに書いてありました、何度読んでも半分くらいしか理解出来ません。分かる範囲で説明します。「中略」

今日皆様に配りました地域戦略の立案のワークシートですが、ここに自分なりの意見を書いて下さい。

1. クラブの現状

2. クラブは何を目指しているか
3. どのように目標を達成できるか
4. 目標に向けての進歩はどうか、活動の進行状況の報告をいつ行うか。理事会、クラブ協議会など。突然指名されることも考えられます。このワークシートを書いて頂いて理解していただければ大丈夫だと思います。期限は 20 日の例会までに提出して下さい。事務局に FAX でもかまいませんのでお願いします。

■幹事報告 幹事 梶田與之助会員



<文書事項>
*ガバナーエレクト事務所開設のお知らせ。
*高鍋ロータリークラブ~9月度例会案内

*地区大会クラブ旗持参のお願い。

*地区大会登録済み当日参加 20 名大懇親会参加 5 名「郡司、梶田、岩切、原田、蔵田」ゴルフ大会参加 2 名 「梶田、太田忍」

■ 出席報告

大久保貞子会員

会員数	27名
免除数	2名
出席数	19名
欠席届	8名
MU届	0名
出席率	76.4%



■ ハッピーBOX 披露

日高邦孝会員



<ニコニコへ>
 ○永野陽子会員～誕生祝を有り難うございます。今年こそはお嫁に行きます。
 <財団へ>○岩切正司会員～人格の向上に励みましょう。

■ 9 月度セレモニー



■ 委員会報告

柳田光寛会員



地区財団・補助金セミナー参加報告
 今年度は 30 周年記念行事と併せた室温計の申請を予定しておりますので進めて

参りたいと思います。

■ 新入会員入会式

○山田光貴 ○美容室経営 ○延岡市出身



佐土原歴史同好会で佐土原の歴史について学ば学ばほど佐土原の地に惹かれております。佐土原での事業展開も考えております。他色々な活動もしておりますので今後色々な形で佐土原を発信して参りたいと思っています。

皆様どうぞよろしくお願い致します。

■ 3 分間スピーチ

田邊 揮一朗会員



8 月 15 日、日本武道館で行われた政府主催の全国戦没者追悼式に参列してきました。参列者は各都道府県にある遺族会が有資格者の中から都道府

県の援護課に推薦し、援護課によって選定されて参列が決まるという流れです。政府主催ですので、最終的には内閣総理大臣からの招待状を頂いての参列となりました。私と妻と娘で参列したのですが、娘（6 歳）が全国で最年少だったため、マスコミ各社から取材を受けて、大変でした。出発前々日に宮日新聞の取材、出発日（8/14）は宮崎空港で NHK、MRT の取材、千鳥ヶ淵戦没者墓苑、靖国神社参拝の後、ホテルで朝日新聞、読売新聞、共同通信の取材、8/15 追悼式前に NHK、テレビ朝日、TBS の取材と目まぐるしい 2 日間でした。娘には大きな負担をかけて申し訳なく思う一方、普通では経験できない経験をしたので、彼女の将来になにかしら役に立てばという親心もあり、複雑な心境です。マスコミからの取材は大変でしたが、戦争について深く考える機会となり、私にとって今回の参列は非常に意義のあるものでした。祖父の遺影は子供の頃から見ていたものの、戦争には関心がなく、ただ、「おじいちゃんは戦争で亡くなったんだなあ」としか思っていませんでした。父が生後 6 ヶ月の時に祖父は戦死し、祖母も私が 5 歳の時に亡くなり、孫である私は戦争の話をほとんど聞いたことがないので、関心が無いのは無理もありません。しかし、ここ数年は、葬儀の仕事を通じて「死」について考えたり、遺族会青年部の活動に参加したりしているうちに徐々に祖父のことはもちろん、戦争のことも自分のこととして捉えられるようになっていました。そして今回のマスコミ取材、追悼式への参列と加えて北朝鮮をめぐる世界情勢。戦争について深く自覚しない方がおかしいともいえる状況でした。そのような状況の中で気が付いたのは、戦争の記憶の継承の中でも、伝えられる側の視点でした。「戦争の記憶を次の世代に伝えなければならない」という伝える側の視点は誰でも理解できます。しかし、記憶の継承は一方通行ではうまくいかないかもしれません。伝えられる側の自覚をどのように促すか、という視点も必要なのかなと思いました。

「戦争の記憶の継承」は、平和な世界の実現のために、現代を生きる私たちに課せられた大きな課題ですが、今回の私の報告が、皆さんの、戦争のことを深く考える一助になれば幸いです。